

地域畜産ふれあい体験交流推進事業

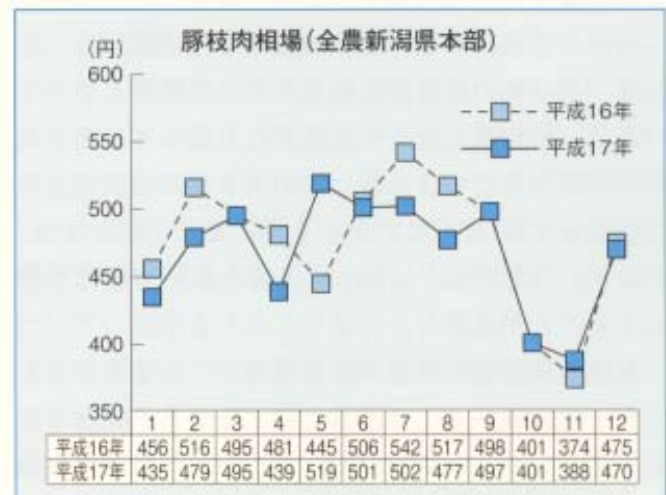
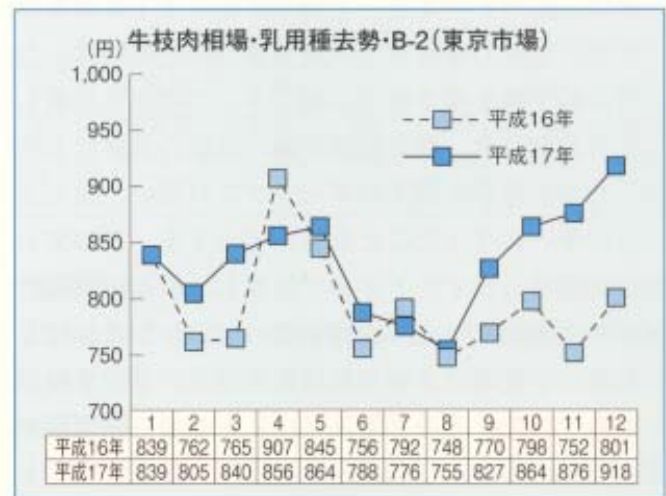
～地域交流牧場協議会の開催～

当協会では平成17年度から3カ年事業として、「地域畜産ふれあい体験交流推進事業」への取組みを開始しました。この事業は消費者の方々に事業を通じて畜産の果す役割や県産畜産物生産に対する理解促進を図り畜産の振興に資することを目的としています。

この度、3月6日に新潟厚生年金会館において事業の一環として「地域交流牧場協議会」を開催しました。メンバーは生産者、消費者、行政関係者、関連団体関係者等です。協議内容は平成17年度事業の実施状況や今後の事業の取組み内容について出席した各関係者から検討いただきました。その後、話題提供として「山羊ネットワークの取組み」についてネットワーク代表の今井明夫氏より山羊の飼育から学ぶものとしての説明を受けました。

- ①人間と山羊の共通点や違い
- ②自然の営みと食料生産の仕組みを知る事
- ③動物の飼育を通して健康管理を学ぶ事
- ④生命の誕生と成長の手助けをする事
- ⑤地域の人達との協働体験が出来る事等、山羊を通じての体験学習の大切さを話されました。また旧岩室村で後藤牧場を営んでいる後藤敏子さんから酪農教育ファームやジェラート製造・販売への取組みの思いを語っていただきました。後藤さんは以前から自分で生産した生乳を消費者に直接、届けたいとの希望からジャージー種を導入したことをきっかけに新潟市角田浜(旧巻町)にジェラート店「ごたらって」を開店しました。「お客さんに“おいしい”と言われ、うれしいです。出店や接客経営は初めてですが、家族や周りの人が支えてくれるので感謝しています。将来的には牧場での体験学習などを通じて、多くの人に理解して欲しい」との思いを語りました。

畜産物市況



編集後記

今年の大雪には呆れてしまいました。例年であれば1月中旬から2月上旬ごろに積雪のピークを迎えるのがいつものパターンですが、今年は降り始めも10日くらい早く、降雪量も例年と比べることができないほどの豪雪となってしまいました。特に4mを超える豪雪との報道にも驚きました。先日、その当事者達が住む津南町の畜産農家の方々と懇談する機会がありましたが、マスコミ報道で連日「津南町」がニュースに流れて全国的に有名になったとの声がありました。話題の争点はこれら報道が「プラス」になっているかどうかでした。過疎、高齢、厳しい自然環境などマイナスイメージが先行して迷惑だとする声が多数ありましたが、逆に有名になった地名と豊かな自然を活かした畜産や農業、観光産業をPRする良い機会だとの意見もありました。この冬の豪雪により県内の畜産被害は畜舎・施設等を含めて多大でありましたが、これらのハンディを乗り越えて次のステップにしたいとの皆さんの声に力強さを感じました。(花田)